

【取扱説明書】※必ずご使用前に取り扱い書を読んで下さい。



発売元
藤原産業株式会社
兵庫県三木市福井2115-1
TEL. 0794-86-8200(代)
日本製

- 【用途】 鋼板・ステンレス板(12mm厚)や塩ビ、FRPの穴あけに。
有効長18mm厚(鋼板・ステンレス板12mm厚まで)
- 【品名】 超硬ホールソー
電気ドリルに装着して円形の穴を底切方向で穴をあける切削工具。……(2段階
切削ドリル切削とホールソー切削 2度注意)
電気ドリルで使用する為に発生する切屑に手を巻き込まれたり、人体又は、被削
材を振りまわされる危険性が常に有るので、注意が必要な切削工具である。
- 【使用目的】 電気ドリルの回転軸にホールソーを取り付ける場合と、旋盤回転軸に被削機を
取り付ける場合と2方法があり、いずれも穴をあける為に使用する。
- 【使用機械】 電気ドリル(電動工具)
正回転……逆回転使用はしないこと
回転用……振動用は使用しないこと
有段無段……回転の変換はどちらとも可
適正回転数…鉄工用電気ドリルで600~1200RPM
電気ドリル…レバーハンドル付きで使用(消費電力500W以上)
- 【使用者】 健全な体調を有する大人で(子供、女子及び長髪者には使用させない)あること。
- 【使用環境】 作業者以外は作業場所に近づけない。
引火、爆発、水気のある場所では使用しない。
作業に合った服装、保護具の着装で使用する事。
- 【△警告】 取り扱いを誤った場合、死亡、重傷を負う可能性が想定される。
- 【△注意】 取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性が想定される。

△警告 《使用前の注意》

- 板厚5mm以上の切削はカス抜きスプリングを外して下さい。
- 電気ドリルはホールソー使用に適合する適用機種であるか確認する。
- 穴をあけようとする被削材に合ったホールソーであるか確認する。
- 角の鋭い刃物なので落下、取り扱いに注意する。
- 被削材の固定はしっかりと為されているか確認する。
- ホールソー本体に歯欠け、キズ、ドリル等に折れ、ヒビはないか。
- ホールソー本体にセンタードリルは装着されているか。(ドリルの無い状態での使用は危険です)
- ホールソーのシャンク三面部をしっかりと締めつけられているか。(締まっていないと使用中にゆるみ振りまわされる)
- ホールソー締付金具は締付完了後必ずはずす事。(締付金具を取り付けたまま回転がまずと、飛び危険)
- 作業前で電源コンセントは差し込まれていないことを確認する。(何かの拍子に機械のスイッチが入ったら危険)
- 作業には編目手袋は使用しない。作業服の袖やネクタイ等、巻きつきやすいものは着用しない。保護メガネ、防塵マスク等の保護具は必ず着用する事。

△警告 《使用中の注意》

- しっかりとした足場、身体の安定を保てる状態で作業する。
- 直径の大きいホールソーでの切削は力が大きくかかるので、人体と被削材と機械が振りまわされない様に注意する。
- ホールソーを被削材に接触した状態で電気ドリルのスイッチを入れない。
- 電気ドリルの軸及び、ホールソー、センタードリルに振れがなく正常に回転しているか異常があれば交換する。
- 回転中の電気ドリルやホールソーに手や身体を触れない。
- 重ね切りなど特別の穴あけは1枚ずつ穴あけ毎にスラグを除去する。
- 自動切込は目づまりの原因で破壊する恐れがあるので、手動切込で作業をする事。

- ホールソー切削は切削材に対して垂直に行う。
- ホールソーの切削始めは、押さえる力をゆるめて穴あけに入る。
- 切削に衝撃の出やすい異形材料(パイプ、デッキプレート、交叉穴、端穴等)は力をゆるめてゆっくり切削する事。
- センタードリルでの穴あけ始めに急激に材料に当てないこと。(ドリルが折れると危険)
- 切屑がホールソーに巻きついたりした場合は、電源を切ってから除去して下さい。
- ホールソーの切削完了寸前には押さえる力をゆるめて下さい。
- 切削途中でセンタードリルが折れた場合はすぐ切削を中止して下さい。センタードリル無しでの切削は危険です。
- 使用直後のホールソー、スラグは高温になっているので、手などを触れないで下さい。
- 重ね切りなど特別の穴あけは1枚穴あけ毎にスラグを除去して下さい。

△注意 《使用後の注意》

- ホールソーの内側にスラグが残っていないか確認し、あれば除去して下さい。
- センタードリルやホールソーにキズ、ヒビ、折れ、ゆるみなどを見られないか確認して下さい。
- 切刃部とドリルは先端が鋭いので、ケースなどに入れて保管して下さい。子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 汚れはきれいにふきとり保管して下さい。
- 取り扱い説明書はお読みになりましたら、お使いになる人がいつでも見られる場所に保管して下さい。

《関連資料》

- ◆ホールソーでの穴あけは、他の穴あけ工具と異なり、スラグ(中身・切りかす)を残して切削する方式です。その為にセンタードリルで1度穴あけをして、次にホールソーで穴をあける2度切削の刃物ですから、2度の注意が必要です。電気ドリル側、ホールソー側、作業側作業が完了するまですべてに2回のショックがかかります。2回の作業を安全に行ってこそ作業が完了することになりますので、十分気をつけて下さい。
- ◆電気ドリルの回転数と切り込み(押え力)の関係
使用機械、被削材、作業者の体力により異なりますが、電気ドリルは鉄工用ハンドルレバー付きの御使用で回転数は表示が無負荷規定回転数が表示してあります。しかし、切削による負荷回転で回転ダウンを起こします。押え力(切込み)を加減して適正回転に近い状態でご使用下さい。

ホールソーの径と回転数の関係

